

2023年7月研究会

研究発表

>> パーレット・・・など <<

2023年7月8日

JCII6階会議室

会員番号0825 稲田裕之



研究会の
様子



今回の研究発表は「パーレット・・・など」と予告されていたので、どんな話が聴けるのか、疑いながら会場にきた方々が多いとおもいます。種を明かせば第一次世界大戦直前にアマチュア向けにコダックが発売し、戦中に大ヒットしたヴェストポケットコダックを範に取って小西六が製作したパーレットを軸に、パーレットと同時期に同社が発売したアマチュア向け蛇腹付きカメラも概観しようというのが私の趣旨です。

ヴェストポケットコダックの矢来(トレリス)型が1912年から1935年まで23年間継続販売されたのに対し、トレリス型のパーレットは一周遅れの1925年に発売され第二次世界大戦直後までの21年間販売されました。このタイプが二十数年もの寿命を保ったのはアマチュアに使いやすい基本性能があったからでしょう。そんなパーレットの実機16台とセミパール、8年型パールなど6台を持参しました。そんな中でおさえておきたいカメラを紹介します。



写真1 小西六の広告「パールレット出づ!!」

1925年型パーレット

有名な広告「パールレット出づ!!パールレット出づ!!」(写真1)とともに出てきた最初のパーレットです。単玉(写真2)と複玉(写真3)



写真2 1925年型パーレット、単玉付



写真 3 1925年型パーレット
複玉付



写真 4 1932年型パーレット、ヘキサ-F6.3付



写真 5 1932年型色パーレット ヘキサ付

があり、シャッターはウォーレンサック製です。まだ接写レンズは無く矢来を伸ばして接写しました。

色の皮が使われたパーレットが発売されました。資料によると普通のパーレットと同価格だったようですが、数が少なく現存数も少ないと思います。

これもヤフオクで見つけました。シャッター不動、蛇腹もひどいものです。何台か見た色パーレットはこのカメラと同じゼイオン付きが多い感じでした(写真7)。

1932年型パーレット

このモデルから純国産になりました。単玉は旭光学合資製に、複玉はヘキサシリーズIIのF6.3に、シャッターのペガサスも自社製になりました(写真4)。

1932年型色パーレット ヘキサ付き

今回のために小林まゆみさんにお借りしました。まだ色もよく残っていてとても綺麗です。そのまま撮影可能です(写真5)。

1937年型高級パーレット

昭和12(1937)年にレザークロス張りで前玉回転のパーレットが出現しました。(外国ではパーレット・デラックスと呼んでいます。)ファインダーの前枠に半截判用のツメの無いものを前期型(写真8)、あるものを後期型(写真9)と呼んでいます。レンズはヘキサシリーズIの75mmF4.5とオプター75mmF4.5でした。何台か所有していますが前期型はヘキサが多く、後期型はほとんどオプターです。アクセサリに前板の丸いかざりに差し込む反射ファインダー(写真10)がありました。

1932年型、1933年型 色パーレット

チョコレート色の結晶塗仕上げで前板の周囲やシャッター部分はぼかし塗、蛇腹は薄茶

1932年色パーレット 単玉付き

ヤフオクで手に入れましたが、シャッター不動、蛇腹穴あります。色パーレットで単玉付きは珍しいと思います(写真6)。

1933年色パーレット ゼイオン付き



写真 6 1932年型色パーレット 単玉付



写真 8 1937年型高級パーレット、前期型



写真 7 1933年型色パーレット ゼイオン付

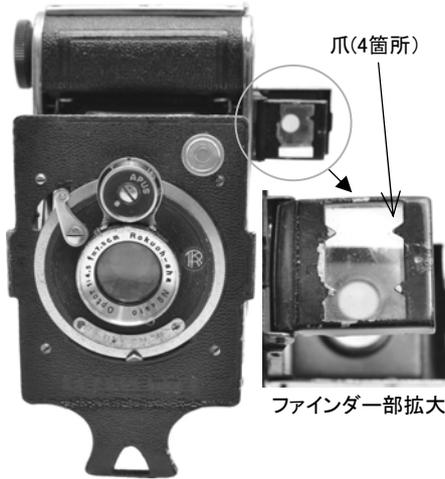


写真 9 1937年型高級パーレット、後期型

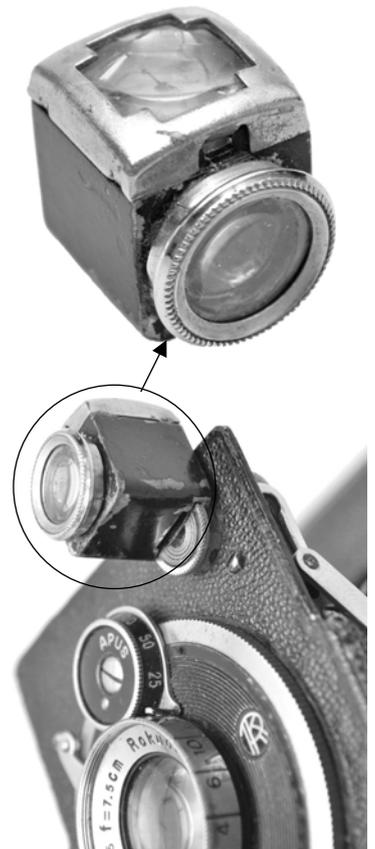


写真 10 1937年型高級パーレットのアクセサリ「反射ファインダー」



写真 11 1946型パーレット



写真 12 1946型パーレットの背面の文字



写真 14 差し込みファインダー各種



写真 13 1932型パーレット以降用の
差し込みファインダー

1946年型パーレット

このモデルが最終モデルです(写真11)。ボディはクロームで縁取りされ、前面にはPEARLETTEと、背面にはMADE IN OCCUPIED JAPAN(OCCUPIEDの“i”が小文字の“i”となっている)のプレート(写真12)がリベット止めになっています。

パーレット単玉の謎

パーレットの単玉付きカメラはUS絞り8(F11)になっているものがほとんどですが、なぜか7年型、8年型前期(ベガサスシャッター)のものだけUS絞りではなくF8になっています。実際に開口部を比べてみても変わりはありません。

1932年型以降用差し込みファインダー

半裁判用のマスク内蔵の差し込みファインダーです。パーレットで半裁判用の赤窓が付いたのは1932年なのでそれ以降のカメラ用だと思います。小山さんの2個を含めて大きさ、ロゴなど微妙に違います。とくに「さくらに六」のロゴは形も全部違い、一つに至っては逆向きに打ってあります(写真13、14)。

前期用、後期用元箱

前期用の箱の中に一等賞 パーレット寫眞機械 一個 と札が入っていました。当時の写真コンテストでしょうか? いったいどんな作品だったのででしょうか。後期型の箱は資料によると、昭和10年から17年のものだったようです(写真15、16)。



写真 15 パーレット元箱

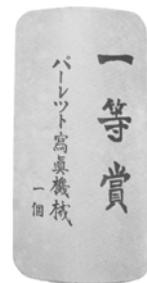


写真 16

ここからはパーレット以外の小西六のカメラについて書きます。

1933年製 昭和8年パール

資料によるとイコンタ型の昭和8年型パール(写真17、18)はザイオンF4.5、ザイオンF6.3のレンズにアバズシャッター、ゼウスのちのデュラックス)シャッター付きだったようです。見つかるレンズはオプターばかりでザイオンなど無いのではないかと考えていた時、とある中古カメラ市の土曜セール品にザイオン6.3付のパールを見つけました。あとはゼウスシャッターを見つけるだけです。

1945年頃のセミパールヘキサシリーズII

75mm F3.8付き (写真19)

このカメラはヤフオクで見つけました。絞り表示は4.5までしか無く、手彫りで3.8と書いてあります(写真20)。ボディは最後の方の赤窓1個ですが、レンズは4桁なので戦前のレンズだとおもいます。手彫りの3.8はこの個体を含め3台見えています。また、手彫りのない個体も1台見ました。

戦前のセミパールの取扱説明書

レンズは4種類(5種類と書いてあるのはミスプリか)、オプターF4.5に、ヘキサーはF4.5、F3.8及びF3.5の3種類が載っています(写真21)。カメラウィキにはF3.8にコンパー付きが載っていますがF3.5は載っていません。F3.5は本当にあったのでしょうか。



写真 19 1945年頃のセミパール



写真 17 昭和8(1933)年パール



写真 18 昭和8年パールのザイオン(Zion)レンズ

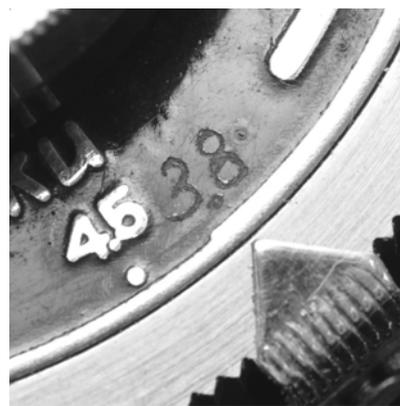


写真 20 レンズ部拡大、手彫りで3.8とある

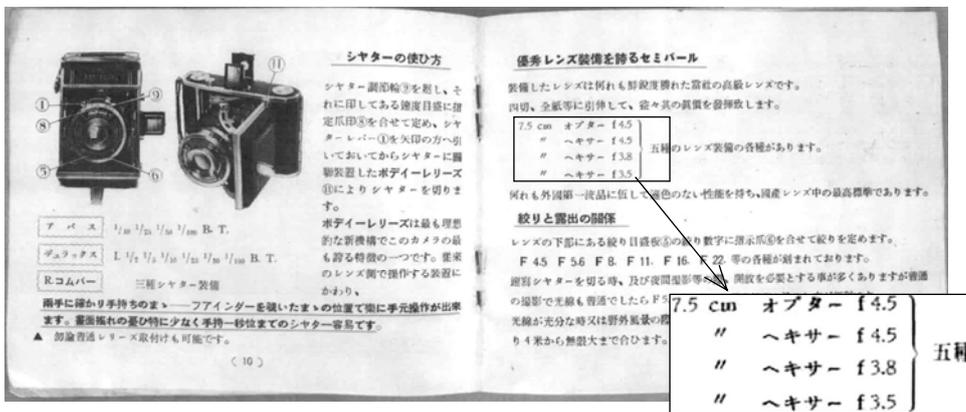


写真 21 戦前のセミパールの取扱説明書。レンズ部の説明に五種とあるが実際は四種？

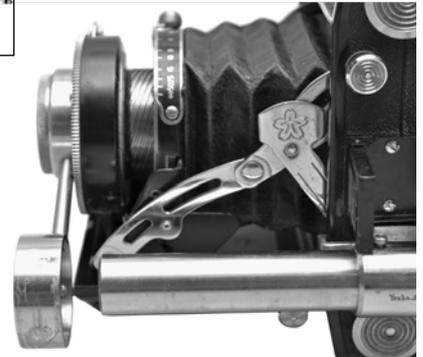
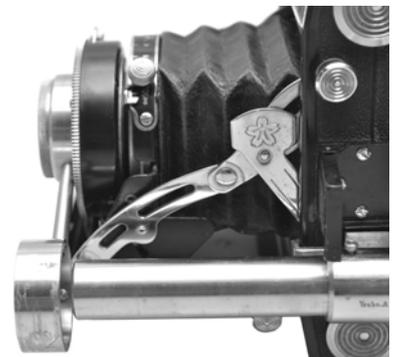


写真 25 レンズ部との連動状態



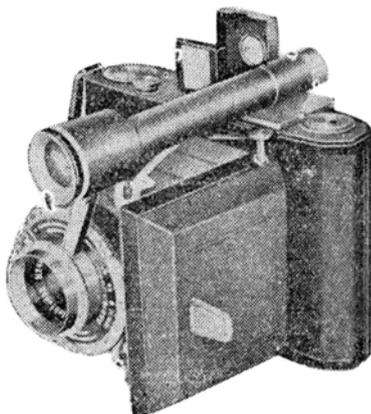
写真 22 Yeaho-A 連動距離計本体



写真 23 刻印部拡大、Yeaho-A と見える

Yeaho-A 連動距離計

小西六のものではありませんが、とても珍しいセミパール用連動距離計を最後に紹介し



Yahoo アクセサリー距離計

写真 26 日本カメラ社1951年カメラ年報記事から

ます(写真22)。Yeaho-A と刻印(写真23)があります。フィルターが2個、棒でつながったようなパーツをカメラの前玉にねじ込みます。

筒状のパーツをボディのファインダー横に乗せてネジで固定します。直進ヘリコイドにより筒状内部の上下像(写真24)が動いて一致したところでピントが合う仕組みです(写真25)。遠くを見ると上下が反対になっています。製造メーカーは不明で、今は無きミヤマ商会で販売したとウイキにありました。また、日本カメラ社の1951年カメラ年報にセミパール用連動距離計ヤホーA(Yaho-A)として紹介記事(写真26)が掲載されていますが、所有する現物にはYeaho-A と刻印(写真23)されています。



写真 24 距離計の上下像

を手本にした1936年製のBパーレット(パーレットB)は、実機を持っていないし周りにも借りられる所有者がいないので発表から省きました。いつかは全機種を並べてみたいとおもいます。

今回は、1929年製のスペシャルパーレット、コダックが1925年に発売したフォルディングベッド型のヴェストポケットコダックモデルB